

1 調査名称：庄原市交通計画策定調査

2 調査主体：庄原市

3 調査圏域：庄原都市圏

4 調査期間：平成19年7月～平成20年3月

5 調査概要：

平成17年3月、庄原市・西城町・東城町・口和町・高野町・比和町・総領町の1市6町が合併し、新庄原市が誕生した。

庄原市では、合併に伴い市域が拡大し、市の魅力が向上する一方で、各地域との連携を強化する交通体系の整備が求められているなど、合併に伴う新たな交通課題が発生している。

また、平成18年度に策定された庄原市長期総合計画において、各地域の位置付けや役割が示されたため、上位計画に即した道路網の構築を行う必要がある。

これらの背景を踏まえ、本計画では、庄原市の交通に関する現状と課題を整理するとともに、より魅力的なまちづくり・都市づくりを行っていくための総合的な交通計画を策定するものである。

< 調査成果 >

1 . 調査目的

平成 18 年度策定の長期総合計画では、各地域の中心市街地を都市機能集積エリアと、さとやま拠点エリアに区分され、庄原地域は市の中核機能やにぎわいのある交流機能を整備することで、備北地域の拠点都市機能の構築を目指し、東城地域はこれに準ずる区域として整備を推進する都市機能集積エリアと位置付けられた。一方、その他の地域は地域内の定住環境の充実を図るさとやま拠点エリアと位置付けられた。また、これらの地域相互は広域連携軸、さとやま連携軸を活用したネットワークで結ばれることにより市街地と農山村区域が共存・補完しあいながら一体的に発展するクラスター型の都市形成を目指すこととなった。

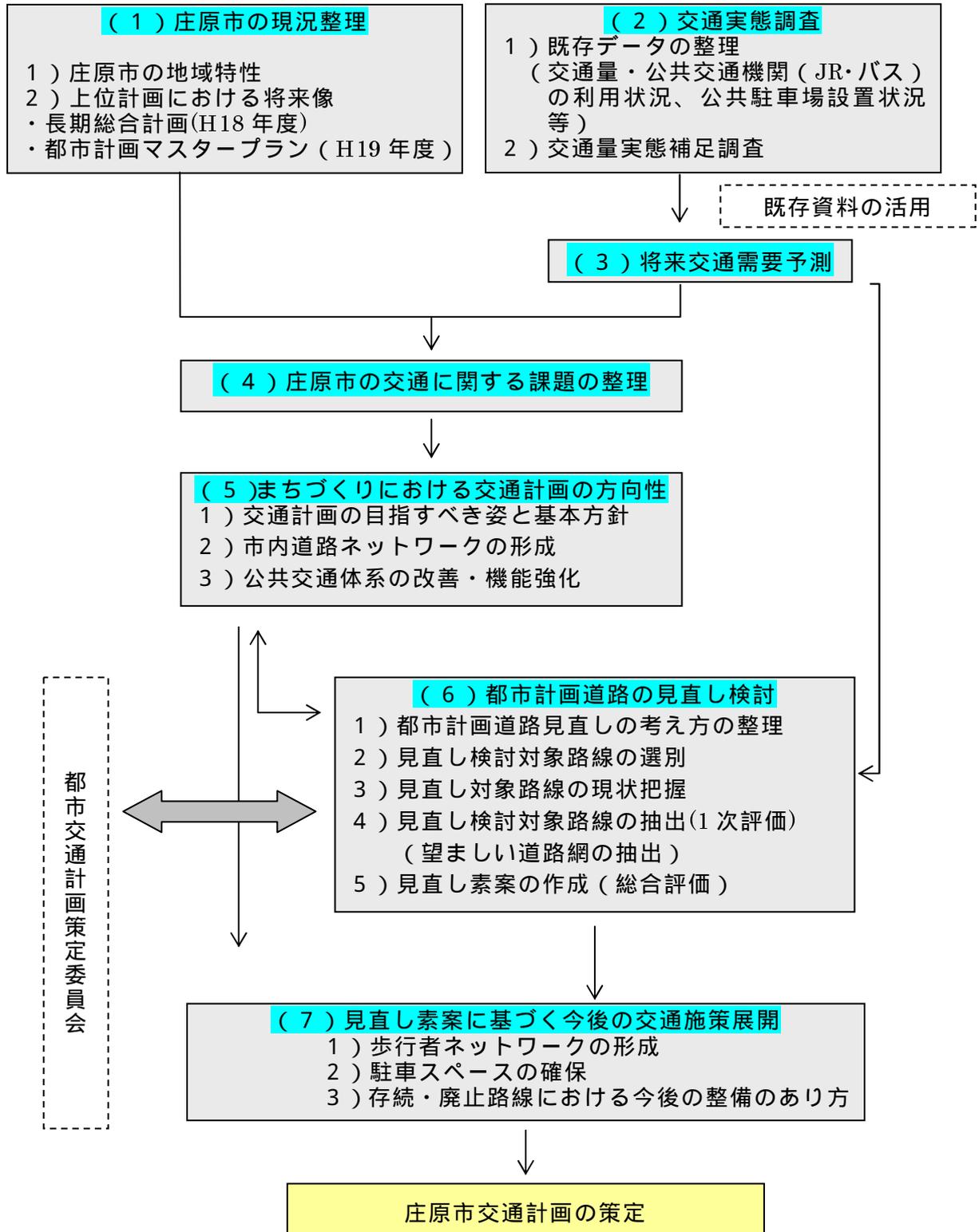
このような土地利用方針等を具現化するために、平成 19 年度策定の都市計画マスタープランにおいて、各都市計画区域が目指すべき将来都市構造が定められたところである。

本計画は、庄原市の交通に関する課題を整理し、まちづくりにおける交通計画の方向性を示すとともに、上位計画で示された市街地整備に関して道路が果たすべき機能・役割について総合的に検討し、各都市計画区域における将来都市構造を具現化するための望ましい道路網の抽出を行う。

あわせて、道路が持つ機能・役割から重要性・緊急性等の判断や都市計画マスタープランに示されたまちづくりへの取り組み方針との整合を図る中で、長期未着手都市計画道路の見直し方針を策定する。

2. 調査フロー

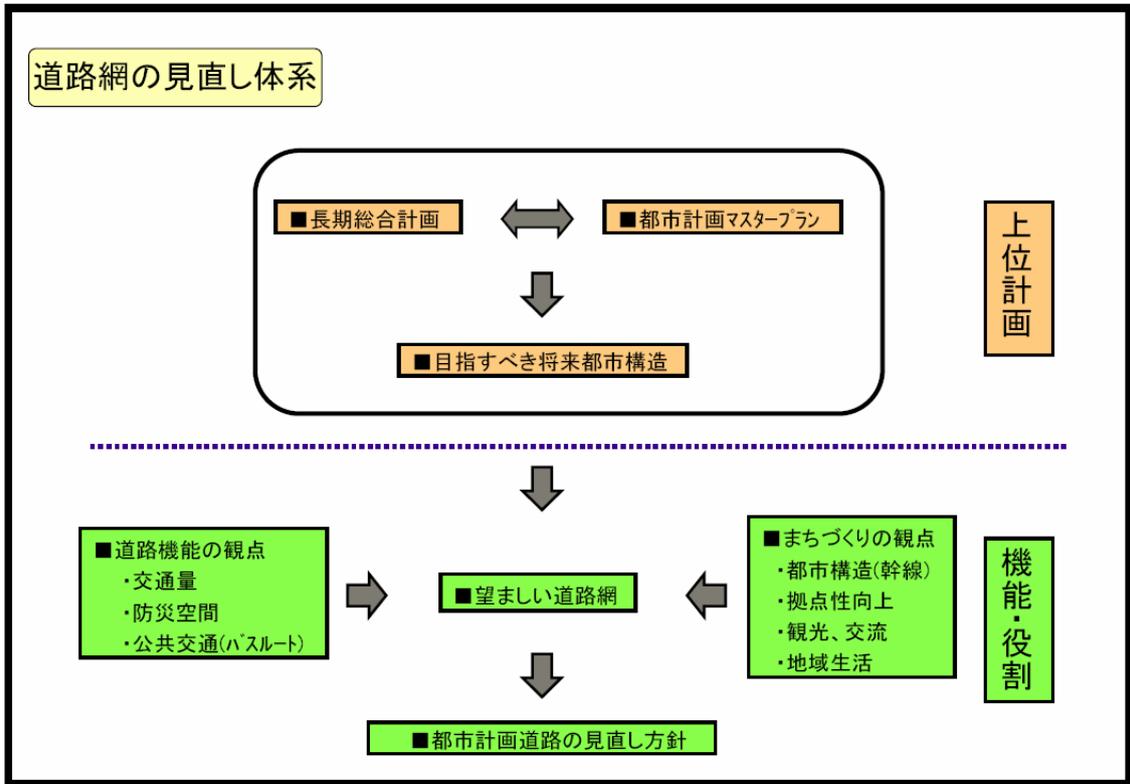
庄原市交通計画策定調査業務



3 調査圏域図

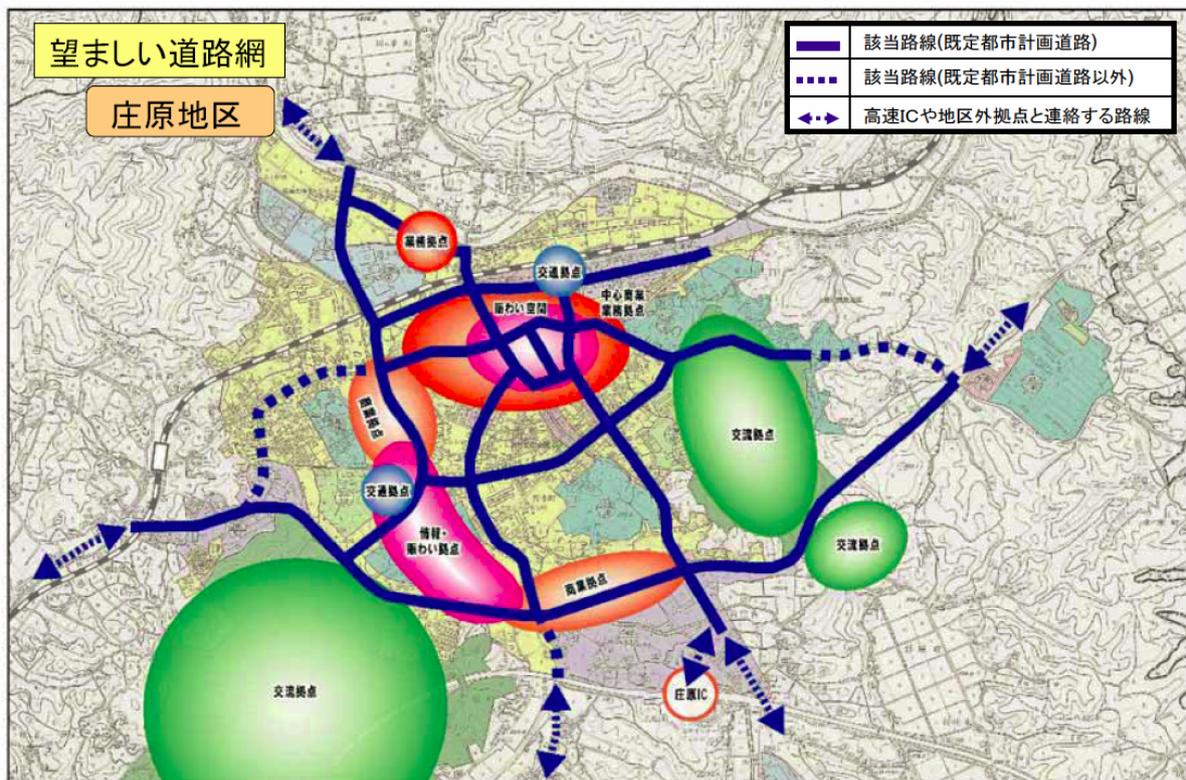


4 調査成果

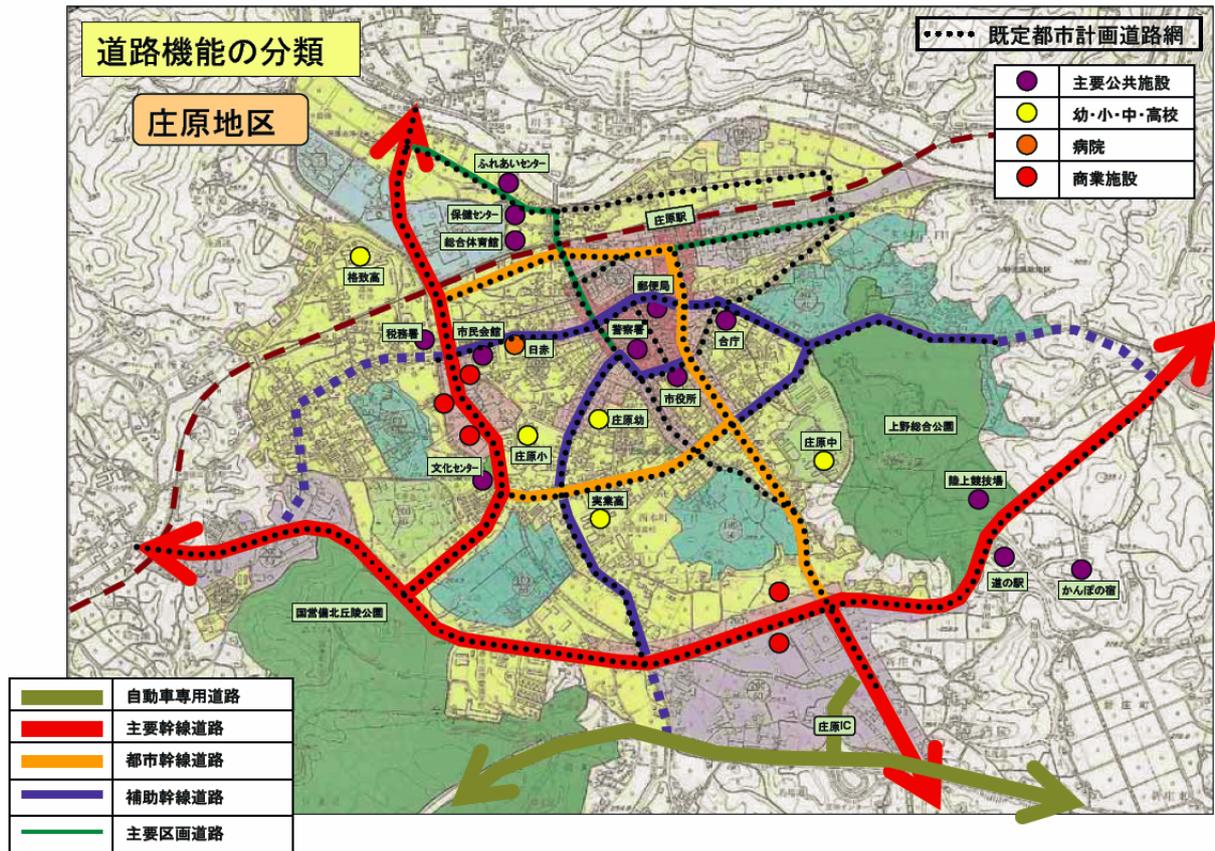




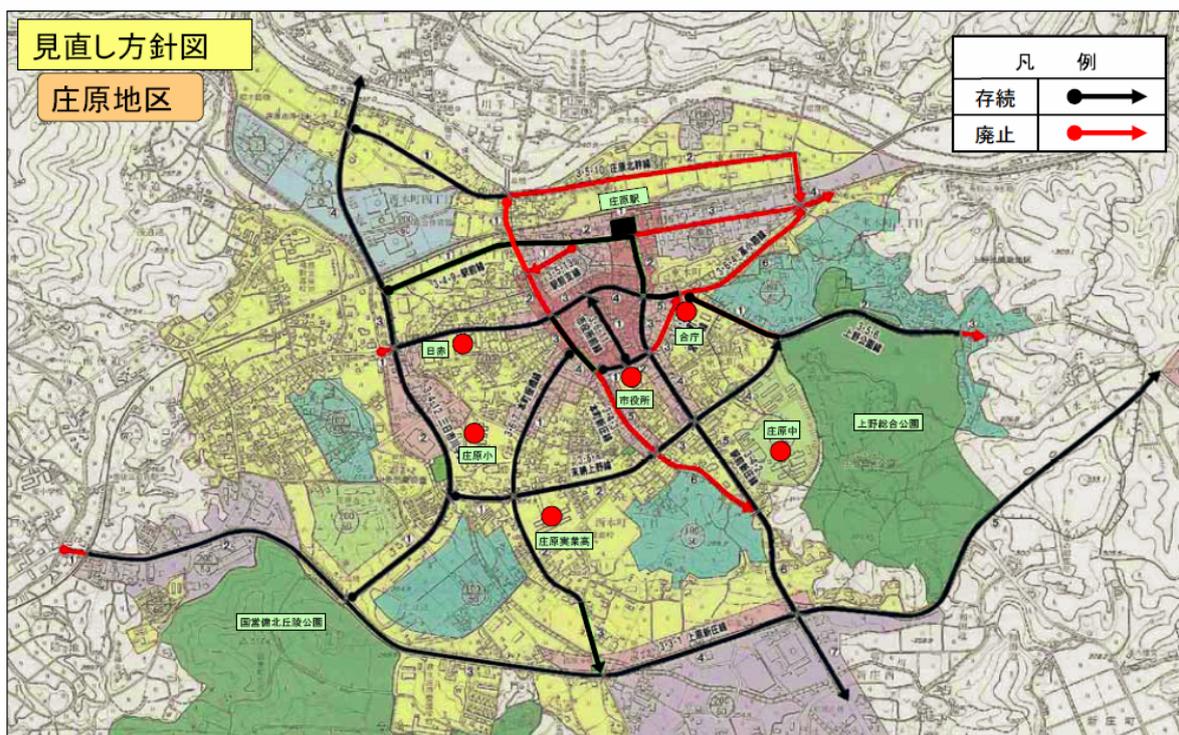
庄原地区では、都市計画道路が13路線あり、そのうち10路線で長期未着手の路線・区間となっている。目指すべき将来都市構造を実現させるため、都市計画道路も含めた全体の道路網を検討し、道路機能の観点や、まちづくりの観点から評価を行い、より効率的な都市づくりを進めるための望ましい道路網を抽出した。



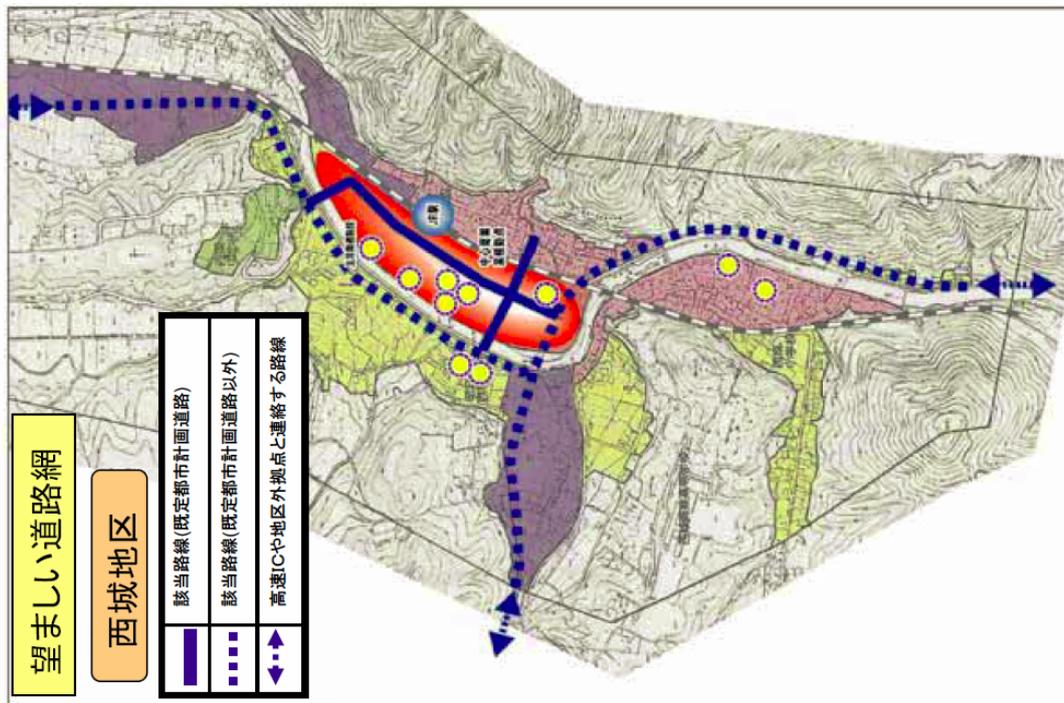
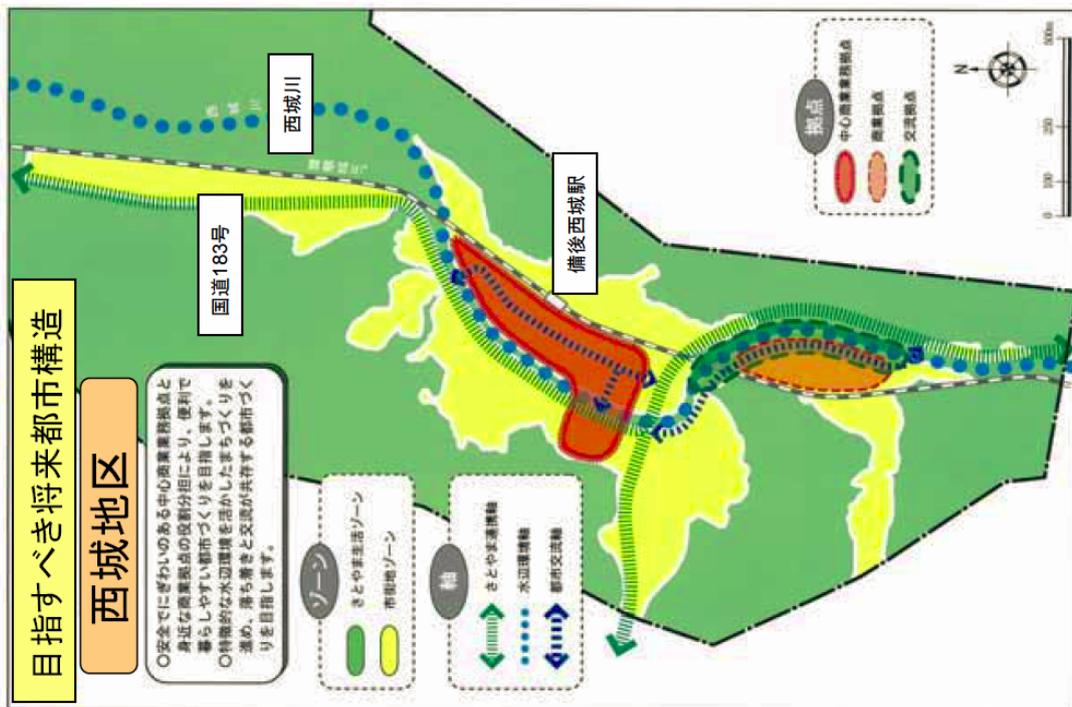
望ましい道路網から、道路の機能に応じて主要幹線・都市幹線・補助幹線・主要区画道路の分類を行った。



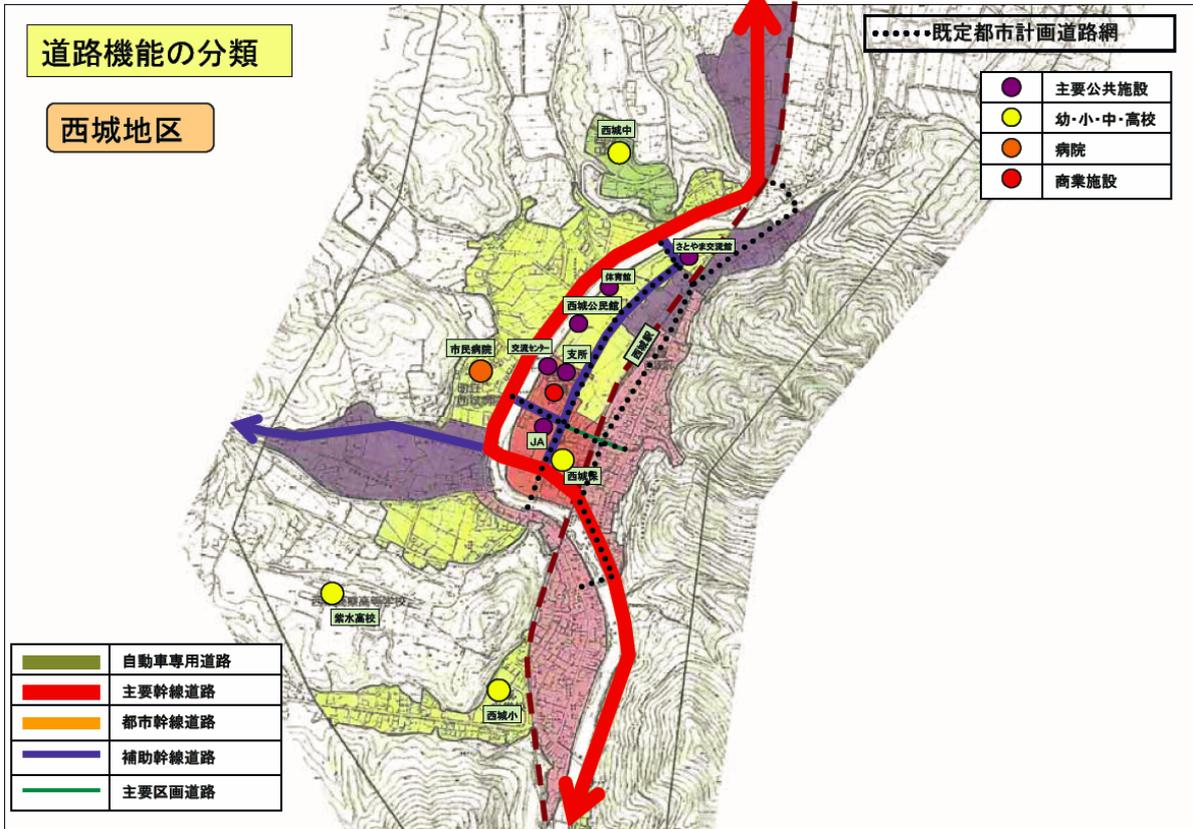
総合評価を行い、上位計画の方針との整合を確認し、各路線・区間の存続・廃止方針案を策定した。



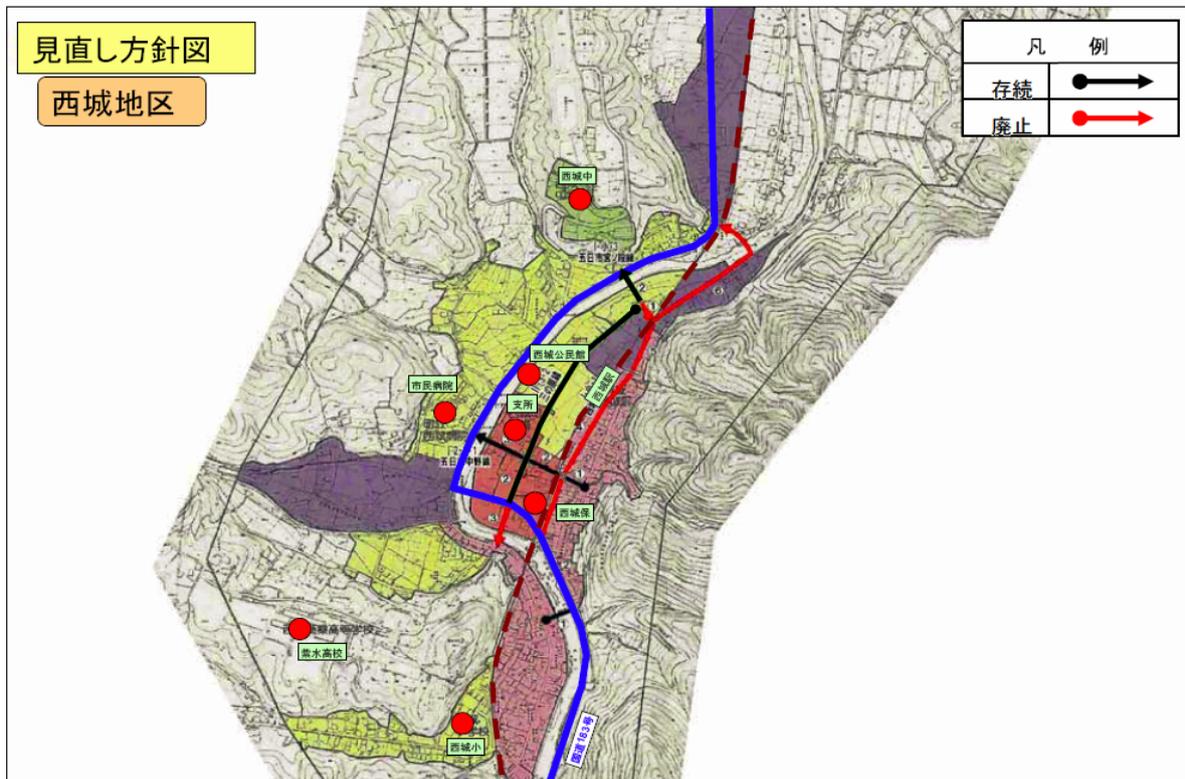
西城地区には、都市計画道路が4路線あり、そのうち3路線が長期未着手路線・区間になっている。道路機能・まちづくりの観点からの評価により、望ましい道路網を抽出した。



望ましい道路網から、道路の機能に応じて主要幹線・都市幹線・補助幹線・主要区画道路の分類を行った。

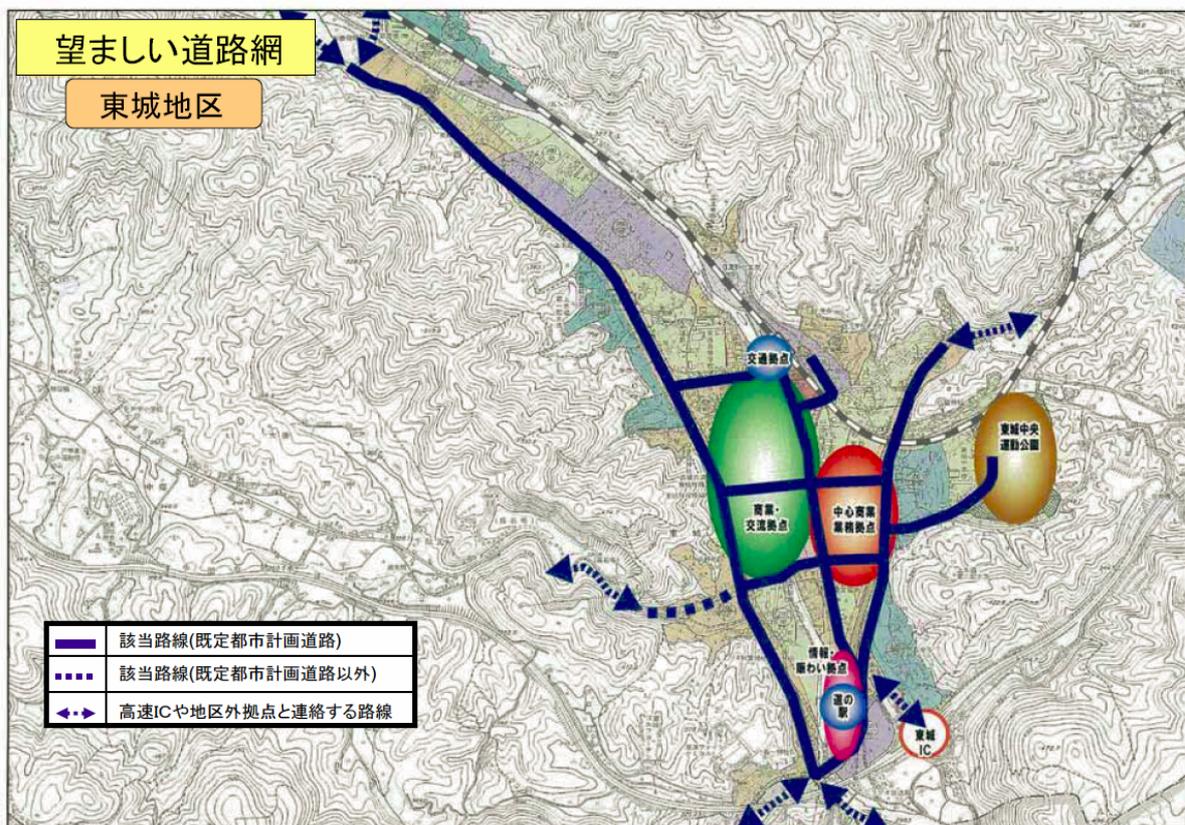


総合評価を行い、上位計画の方針との整合を確認し、各路線・区間の存続・廃止方針案を策定した。

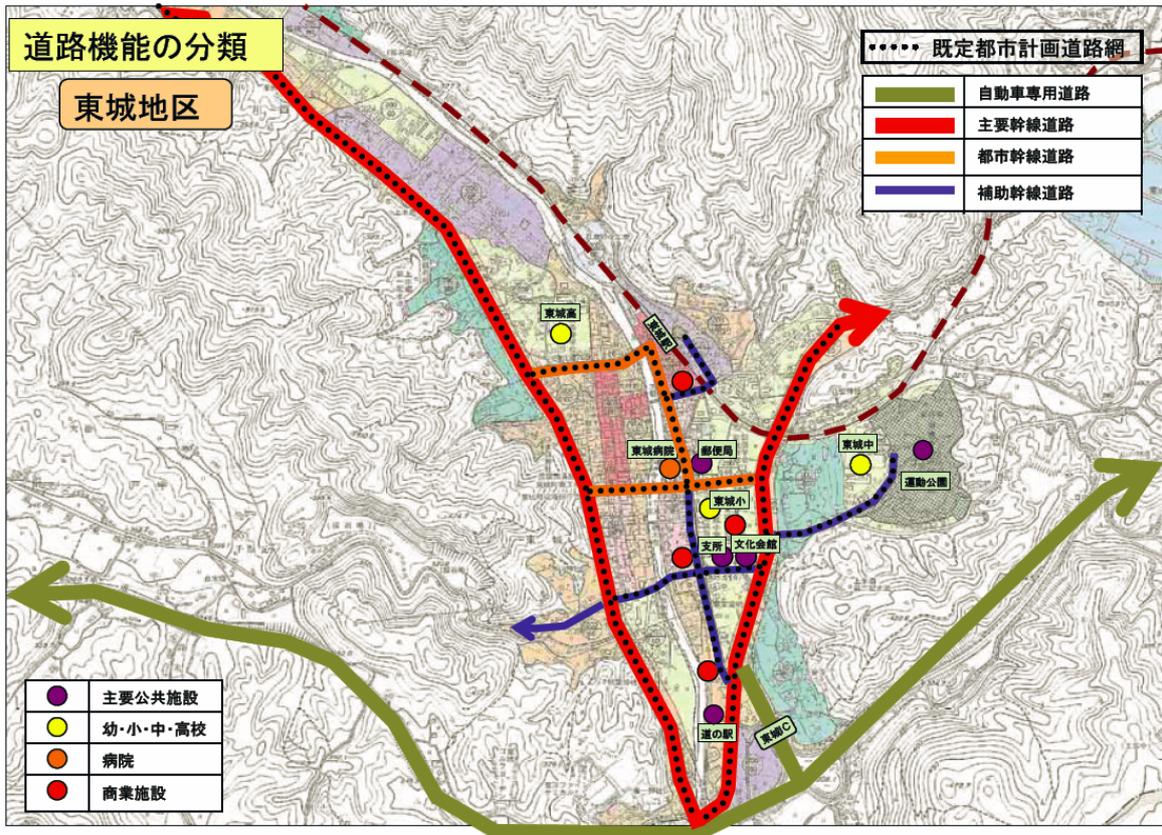




東城地区では、都市計画道路が9路線あり、1区間のみ未着手路線があるが、整備中も含めほぼ、整備済みとなっている。各拠点を効率よく連絡する道路を配置し、誰もが円滑に通行・回遊できる道路網を抽出した。



望ましい道路網から、道路の機能に応じて主要幹線・都市幹線・補助幹線・主要区画道路の分類を行った。



総合評価を行い、上位計画の方針との整合を確認し、各路線・区間の存続・廃止方針案を策定した。

